

## 雇用の場を新たに創出 (株)NPKと企業立地協定を締結

9月28日、市では初となる本格ワイナリー「小林生駒高原葡萄酒工房」の立地に伴い、(株)NPKと企業立地協定を締結しました。同社<sup>こだまかすひろ</sup>代表取締役は、「地元の人たちに飲んでもらえるワインを作りたいと思っています。近隣の観光施設などとも連携していきたい」と話していました。



生駒高原レクリエーションセンターの一部を市が貸し付けて同工房を建設。今後、8人の新規雇用の創出が見込まれています

## 「じぶんの町を良くするしくみ」 赤い羽根共同募金はじまる

10月1日、赤い羽根共同募金の厚生労働大臣メッセージ伝達式が市役所応接室で行われました。市社会福祉協議会の種子田<sup>たねうだ</sup>市長は、「住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、さまざまな事業に活用されます。皆さまのご協力をお願いします」と話していました。



昭和22年に始まった同運動。寄付金は子どもや高齢者、障がい者などを支援する福祉活動や災害支援などに役立てられます



同協議会の前田博俊<sup>ひろしむの</sup>会長は「今年は豊作。ひとつずつが大きく甘いのが特徴です」と話していました

## 特産品「ナシ」の出来上々 新興・新高の品評会開催

9月26日、西諸県農業改良普及センターで市果樹農業振興推進対策協議会とJAこばやし梨ぶどう生産部会によるナシの品評会が開催されました。【以下結果・優等/金賞のみ】◆新興：協議会…永迫賢治<sup>えいせきけんじ</sup>さん/JA…小原勇太<sup>こはらゆうた</sup>さん ◆新高：協議会…永迫賢治<sup>えいせきけんじ</sup>さん/JA…種子田健太郎<sup>たねうだけんたろう</sup>さん



小磯<sup>こいそ</sup>さんは、3年ほど前から地域の交通係になり交通指導を始めました。現在、交通指導員は17人に委嘱しています

## 「地域の交通安全を守ります」 小磯敏治<sup>こいそとしはる</sup>さんに交通指導員委嘱

10月1日、小磯敏治<sup>こいそとしはる</sup>さんに交通指導員を委嘱しました。交通安全の指導や普及を目的で、任期は平成32年9月までの2年間。小磯<sup>こいそ</sup>さんは「いつも指導している売子木の交差点は交通量が多い場所ですが、今まで通りがんばります」と話していました。今後、通学路の見守り活動などを行います。

## よろず生産の神を祭る祭典 陰陽石まつりで住民ら交流

9月23日、こばやし陰陽石まつりが陰陽石公園で開催されました。地域住民ら約600人が訪れ、神事祭典では五穀豊穡を祈願。その後、同公園駐車場や東方地区運動場で、ペタンク大会やグラウンドゴルフ競技、ステージでは歌やダンス、舞踊などが行われ来場者は交流を深めました。



陰陽石に奉納される伝統芸能「東方輪太鼓踊り」を東方中学校の生徒らが披露すると、会場からは拍手が起っていました

## 「こころもからだも健康に」 コープみやざきで街頭PR

9月25日、各種健(検)診や自殺予防の啓発を目的にコープみやざき小林店で街頭PRを行いました。市民の健康増進をサポートする健康推進員や、傾聴活動などで自殺者減少に取り組んでいるこころの健康サポーターなど14人が参加。店舗入り口で啓発チラシやグッズを配布しました。



健康推進員の瀬戸山<sup>せとやま</sup>博子<sup>ひろこ</sup>さんは、「がん検診はきっかけづくりが大事。これからも続けていきます」と話していました



打上花火とライトアップされたコスモス。会場は幻想的な雰囲気  
に包まれ、来場者からは大きな歓声と拍手が送られました

## コスモスと打上花火の共演 生駒高原でコスモスまつり

9月22日から10月28日にかけて、コスモスまつりが開催されました。生駒高原では100万本のコスモスが開花。期間中5日間は、2万5千個のキャンドルでライトアップされたコスモスが会場を彩り、ステージイベントや打上花火なども行われ多くの来場者で賑わいました。



大自然の中、家族連れなどがクリ拾いを体験。参加者は、スタッフの説明を聞きながら丁寧にクリを拾っていました

## クリ拾いや物産展で秋を堪能 すきむらんど栗まつり開催

9月23日、すきむらんど栗まつりが開催されました。市内外から約2500人が来場し、恒例のクリ拾い体験では、5ヶ所の農園に分かれ収穫を体験。すきむらんどでは、バンド演奏や大抽選会などのステージイベント、魚のつかみ取りや物産展があり、来場者は秋の味覚を堪能していました。



## 多くの買い物客で賑わう 第34回福祉バザー開催

10月20日、第34回福祉バザーが市民体育館で開催されました。「お互いに助け合う心豊かな福祉のまちづくり」を推進し、住みよい社会環境を育むことが目的で、福祉関係者14団体が出店。タオルや皿などの日用品や野菜などを販売し、会場は約1000人の買い物客で賑わいました。



買い物客で賑わう会場。バザーの売り上げの一部は、各福祉団体の活動費や福祉推進活動費、災害義援金などに当てられます

## 親子や地域のつながり再確認 県子ども会育成大会を開催

10月21日、県子ども会育成大会が開催されました。県内の子ども会役員など約200人が出席し、実践発表や講演会などを実施。講演では、家庭・青少年教育ネットワークの池本要理事長が「親が変われば子どもが変わります。子どもとしっかり向き合うことが重要です」と話していました。



同大会は子ども会活動を充実させ、青少年健全育成の推進が目的。来場者は子ども会活動の重要性について理解を深めていました



同実行委員会では、今後も吉都線の維持・存続を目指し、さまざまなイベントを開催します。ぜひ、ご参加ください

## 観光列車「特急はやとの風」 吉都線で60人が乗車

10月12日、「極上列車の旅 特急 はやとの風（吉都線に観光列車を呼ぼう！小林実行委員会主催）」が吉都線沿線で開催されました。約60人が参加し、ゲストとしてこばやしPR大使で歌手の大野勇太さんやMRTの田代剛アナウンサーを招待。参加者は都城駅までを往復する列車の旅を堪能しました。



除草作業をする会員ら。翌21日、同センター前広場でシルバーフェスタが開催され、センターの普及を呼びかけました

## シルバー人材センターが 市内21カ所で奉仕作業

10月20日、市シルバー人材センターが市内各地で奉仕作業を行いました。10月の普及啓発促進月間活動の一環として実施。会員ら約300人が参加し、小林駅周辺、梅の天神付近や永久井隠れ念仏洞など市内各地を21班に分かれ、ごみ拾いや除草作業などを行いました。



2

## 震度6強の地震を想定 細野地区で県総合防災訓練

10月14日、宮崎県総合防災訓練が細野地区体育館で開催されました。自衛隊、消防署、警察署、気象庁、県や市などの行政機関と地域住民ら約300人が参加。震度6強の地震を想定し、避難所開設から運営までの流れを行いました。また、气象台、日赤、自衛隊やJRAT（大規模災害リハビリテーション支援）の装備品展示なども行われ、参加者は防災への理解を深めました。



3

Photo1 指揮所図上訓練では、県や市などの各行政機関との連絡や情報共有を行い、災害発生時に迅速に対応するための訓練を行いました。2 避難所内にはテントや畳のベッドなどを設営。3 炊き出し訓練も行われ、カレーがふるまわれました。

## 三松中生徒3競技で3人が 全国大会での健闘を誓う

10月10日、三松中の生徒3人が全国大会出場を市長に報告しました。バレー競技（県選抜）で町浦陽介さん、陸上競技で滝口俊人さん、ソフトテニス競技で小水流里菜さんが全国大会の出場権を獲得。小水流さんは「良い選手が集まる大会なので、多くの技術を学びたい」と話していました。



全国大会出場を決めた町浦さん、滝口さん、小水流さん（写真左側2人目から）。大会での活躍が期待されます



市内での交通事故件数は年々減少傾向にあります。今後も交通事故死ゼロが継続できるよう、交通安全にご協力をお願いします

## 「今後も安全に気を付けよう」 交通事故死ゼロ240日表彰

10月4日、市は240日間の交通事故死ゼロを達成したことで県交通安全対策推進本部から表彰されました。同日行われた表彰式で最上川周一県交通・地域安全対策監は、「事故はさまざまな要因で発生します。安全に気を付けてこれからも継続してほしい」と話していました。





長年、市総合文化祭に「菊」を出品する  
菊愛好家 仮屋 正夫さん(85)



④ 今年も生育は順調。文化の日のころに満開に。⑤ 菊づくり以外にも、サツマイモや稲作などの農作業も行う。「元気なうちは、いつまでも農業を続けたい。作物を育てるのが好きだから」⑥ 昨年の文化祭に出品した菊。文化祭に合わせて花を咲かせられるのは高い技術があるからこそ。

小林市総合文化祭の玄関口で来場者を迎える美しい鉢植えの「菊」。この菊を長年、出品し続けている人がいる。

仮屋正夫さん、85歳。「多くの人に見てもらいたい。喜んでもらっている。だから続けらるつとですよ」。

仮屋さんの菊づくりは、まず土づくりから。霧島岑神社近くの落ち葉を集め、油粕や鶏糞などと一緒で半年以上、土の中で寝かせ腐葉土にする。そして、その土を取り出した後は、病害虫の発生を防ぐために鉄板

で焼土する。「土づくりは本当に大切じゃつとよ。ここで、菊の良し悪しが決まるから手は抜けんがよ」。

鉢に菊を植え、芽が出てきてからも油断はできない。病気の予防はもちろんのこと、アブラムシやヨトウムシなどに葉や花びらを食べられてしまわないように、毎日の手入れは欠かせない。

「油断するとすぐダメになる。今でもうまくいかないうちは、たくさんあつとよね」。

こうして、1年以上かけてやつとの思いで美しい菊が花開く。そして、来年に向けて再び土づくりから準備を始める。

「特にうれしい瞬間は、つぼみが開き始めるときじゃがよ。どんな風に花びらが開くのか想像するのが楽しくてたまらん。周りからは『大変だね』とよく言われるけど、好きだから大変だとは思わんとですよ」と笑顔を見せる。

今年も、仮屋さんの愛情が込められた菊の花が文化祭に彩りを添える。

## 今年はどうな花が開くのか 菊づくりは楽しくてたまらん。

小林人  
こばやしびと  
Vol.82

# きずな協働体通信

このコーナーでは、市内7地区で設立された「きずな協働体」の活動やイベント情報を紹介します！

### 野尻地区

## 野尻町花いっぱい運動！彼岸花を植栽しました！



来年の彼岸花まつりを、ぜひお楽しみに！！

9月23日、観光協会と輝けフロンティアのじりの共同主催で、ゆるゆるのじり周辺で彼岸花の植栽イベントを行いました。彼岸花の植栽は3年目。今年は約100名の地域住民が参加し、約6000球の彼岸花を植栽しました。現在はゆるゆるのじりの国道沿いの土手を中心に彼岸花が咲いています。来年からは駐車場周辺を含めて彼岸花が咲き誇ります。毎年多くの観光客が訪れる彼岸花まつりに一層の花を添えるでしょう。輝けフロンティアのじりでは今後も野尻町の国道周辺環境美化、花いっぱい運動を展開します。

### 細野地区

## 細野小学校の空き教室へ事務所を移転！



事務所の隣(教室)で図書開放や茶飲み場などのイベントを予定しています

細野まちづくり協議会の事務所を細野小の空き教室に移転しました。地域住民が気軽に立ち寄れる茶飲み場や子ども達とお年寄りとのふれあいの場、気軽に本を読める地域図書館など、地域のプラットフォーム(活動の拠点)としての役割を担います。また、小・中学校やPTA主催の活動をこれまで以上に地域と連携できるようにしました。地域全体の結びつきを強くし、災害時や緊急時に迅速に対応できる「安心して暮らせる地域づくり」を推進します。気軽に立ち寄れる場所になれるよう、幅広い年代の方が交流できるイベントなども開催します。お近くにいられた際はぜひお立ち寄りください。

### 西小林地区

## シンガポールの子もたちと国際交流！



シンガポールに派遣された西小林中の4人は、貴重な体験ができたと話していました

県シンガポール親善協会主催の少年少女親善交流使節団に参加して今年で2年目になります。今年8月、西小林中の生徒4人をシンガポールに派遣。12月にはシンガポールからの受け入れを行う予定です。留学生に小林の家庭・学校・地域生活という総合的な角度から日本の社会を体験してもらい、受け入れる側も、地域の文化や、日々当たり前のように感じている宮崎の豊かな自然環境を再認識する機会となるよう、手助けしたいと考えています。子どもたちがさまざまな体験を通し、視野の広い国際人に成長することを願っています。